

155



特241
207

38
22



0052742000

0052742-000

特241-207

思想戦と青年団

大日本聯合青年團・著

日本青年館

昭和13

AHP

特241
207

序

本團は曩に文書教育の積極的普及を計り、昭和十二年度
に於ては、ラヂオ教育の普及を計畫し、いま又映畫教育を
實施する事にした。

其の目的は、青年團員の教養を高むることにあるは勿論
であるが、其の大半の目的は、未曾有の難局に處し、思想
戦に備へんとするの意圖にあつたのである。之を全國青年
團幹部に御知らせ、んとして出來たのが本書である。

昭和十三年五月

大日本聯合青年團



大日本聯合青年團

昭和十三年正月



本團の発行する書籍の寄附金は、その意圖の如く、その大半の目的は、未曾有の難儀に對して、思想青年團員の進歩を高めることにあることである。



目次

一、緒言……………一

二、ユダヤの陰謀……………四

 1 シオン議定書……………五

 2 實際の活動……………三二

三、陰謀と日本國民……………三六

四、思想戦と青年團……………四〇

五、結言……………四〇

思想戦と青年團

一、緒言

世界大戦後獨帝は、

『余は、ノースクリップ（英國の對敵宣傳部長）の宣傳戦に負けたと告白して居る。』

當時の參謀總長ヒンデンブルグ元帥も『戦場に於ける最大の困苦は、母國から來る思想的艱苦の訴へであつた。この訴へは兵士を墮落せしめ、かくして獨逸は遂に銃後の思想戦から敗れたのである』と云つて居る。

更に參謀長ルーデンドルフ將軍は、左の如く述懐した。

「獨逸は、武力戦では勝利を占めたが思想戦に敗れたのだ。聯合國は兵器による勝利の望みを失つてからは、我等の母國を思想戦で攻撃し遂に勝利を得た。吾々も思想戦に對してあらゆる困難と努力を惜まなかつたが、敵國民の輿論が意外に安定して居たために全く不成功に終つた。」

之れを以て見るに世界大戦に於て、連戦連勝した獨逸が終局に近づき、悲惨なる最後を告ぐるに至つたのは、所謂思想戦に敗れたが爲であり、聯合國側の用意が十分であつたことが判る。而してこゝに戦ひの勝敗は單に武力、經濟力のみでなく、宣傳力も極めて重要な役割を持つことが立證された。

故に君々は、今回の事變に於て、武力戦並經濟戦に、如何に大勝せりと雖も、今後の思想戦、宣傳戦に對して無關心であつてはならない。否最も重要視する必要があるのである。

支那事變に於ける大勝の蔭には、忠勇無比なる將兵と、優秀なる兵器と之れを支

へる精神的、物質的銃後の協力のあつたことは勿論であるが、其の源泉となるものは全國民が持つ、燃ゆるが如き皇國精神の發露に外ならない。幸に我が國民の血液には生れながらにして既に肇國以來一貫せる皇國精神が流れて居る。即ち皇國精神は吾々の血であり肉である以上、獨逸の如く容易に思想戦に敗北するが如きことあらうとは考へられない。しかしながら人の心は片時も停止することなく動いて居る殊に熱し易く冷め易い吾々日本國民は、巧妙にして手段を撰ばざる思想戦に對して深き注意を怠つた場合は、知らず識らず此毒素に感染し悔を千載に残すことかないとは誰が斷言し得やうか。

世界無比なる我帝國の今日あるは、吾々祖先の忠誠の賜であると共に、斯の如き天壤無窮の帝國を保持發展せしめることは、吾々現代國民の絶對的使命であらねばならぬ。吾々は今後一層皇國精神を強調し、舉國一致、堅忍持久以て武力戦並經濟戦に、必勝を期さなければならぬこと勿論であるが、更に敵の如何に巧妙なる宣

傳にも、決して感ぜざる十分の準備と信念を堅持し、吾々の持つ大使命を果さなければならぬ。

此の場合国際紛争の源泉が何處にあるか、其源泉と「ユダヤ」人との關係及思想問題と「ユダヤ」人とは如何なる關係にあるかを検討し、之れを認識して今後の思想戦に備へることは、まことに刻下の急と信じ、茲に「ユダヤ」人によつて作られたる「シオン」の議定書、及其議定書と國際情勢との關係をこゝに紹介する。

二、ユダヤの陰謀

今更「ユダヤ」の人種や歴史を詳細に説明する必要は認めない。然しユダヤ人が其祖先アブラハム以來今日迄、凡そ四千年の長きに亘り、「ユダヤ」唯一神教を信仰する民族であり、其宗教は、極端なる排他的民族中心主義を以て教義となし、之れが禍し「ヘロデ」王を失つて以來、王國と訣別し、紀元七十年前ローマ皇帝によつ

て「エルサレム」を占領され「聖なる神殿」を破壊せられて以來、一定の國土を有せず、世界各國を流浪し、今日に至つた民族である。がしかし唯一神教に對する信念とユダヤ國再建の情熱と他民族の迫害に對する復讐とは片時も忘れない民族であり、又如何に國籍を異にするも、其國家を超越して結束する民族なることは一般に知られてゐるところである。

1 シオンの議定書

「ユダヤ」人の結社及陰謀は今日に始まつた事ではなく、過去四千年の間絶へず繰り返されたものに違ひない、けれども巧妙なる「ユダヤ」人は、他民族並に國家の猛烈峻嚴なる迫害に對してもよく隠蔽するだけの力を有して居つた。

然し遂に今から六、七十年前、ジョン、レドクリフ博士に探求せられ、更に露人セルグー・ニルスによつて、摘發せられるところとなつた。勿論之れ以前に發摘した人も相當あつた様であるが、或は殺害せられ、或は出版物全部を買收廢版せら

れたるため世に知られなかつたものであらう。

今此等兩名によつて發表せられたユダヤ人結社に於ける演説並に議定書を見ると左に列擧するがごときものである。

◎西曆一千八百六十年巴里開催のユダヤ人結社に於ける演説、

アドリフ・クレミエの演説要旨

「吾人が茲に創設せんと欲する同盟は、フランス人同盟でもなく、イギリス人同盟でもなく、又、スイス人、ドイツ人等の同盟でもない。實にユダヤ人の全世界同盟である。

ユダヤ人の信仰する靈智の唯一神教たるユダヤ教が全世界にその光輝を發し、キリスト教徒及びマホメット教徒がユダヤ教に屈服するまでは、悉く彼等を敵として親交を許さない。彼等非ユダヤ人はユダヤ人の權利と利益とに對して敵對心を抱き且つ、ユダヤ教に反抗する者である。

吾人は先づ第一にユダヤ人であり、且つユダヤ人として存在することを欲するものである。ユダヤ人の國粹の精華は、一つにユダヤ人の父の宗教（ユダヤ教）である。即ち吾人は如何なる政權をも認めることは出来ない。我が民族は常に外國に生活してゐるのであるが、吾人は異國人の輕薄なる欲望の前に御機嫌とりをするやうな馬鹿なことは出来ない。

我が民族の威力は宏大なるものである。吾人はこの威力を以て吾人の事業に適用すべく研究しようではないか。吾人には何事も恐るゝ所はない。地球上に存する一切の富を、ユダヤ人の所有とする日は、いよいよ近づいたのである。

然り、若しも黄金が世界第一の力であるならば、出版物は正に第二の力である。出版物の助力を缺いてはこの大會に於て縷々述べられる各種の考案も、協議も、凡て何等の意義をなさないことになる。出版事業を吾人の掌中に收めた時、初めて吾人の目的を達することが出来る。吾人は須らく日常の出版物を指導すべきで

ある。……又、輿論、巷間の文藝及び芝居を製造するため、吾々には大政治新聞が必要である。

吾人が掌中にある出版物を利用して、吾々は不正なものを正當とし、不名譽な事を名譽とすることが出来る。……吾々は物事を有名なものにすることも、之を侮辱してつまらぬものにするとも、思ひのまゝである。……非ユダヤ人は見たところ虎のやうだが、心は羊のやうで、誠に輕卒極まる人民である……』

モーゼス・モンテ・フィオレの演說要旨、
『吾人は何よりも先に、出版界の權能をユダヤ人の掌中に收めねばならぬ。諸君が徒らに貿易及び資本、その他のものを壟斷せんとしつつあるも、これ等の努力たるや、全く徒勞の業である。吾人が全世界の言論を自由に操縦し得んがために世界中の凡ての出版事業を吾人の掌中に收めなければならぬ。それまでは吾人の統括權に關する理想は、妄想として存在するに過ぎない……』

◎西曆一千八百八十九年ブラーク市に開催のユダヤ人秘密會の議定要旨、

(一)世界の黄金は出來得るだけユダヤ人の手に占有せなければならぬ。黄金は有らゆるものを求め、又如何なることをもなし得らるゝからである。

(二)印刷業を占有し之れを利用して總ての非ユダヤ人を墮落、敗類せしめ、愚者と化せしめ、而して騒亂を起さしむること。

(三)自由思想、懷疑説を非ユダヤ人に宣傳し、非ユダヤ人をして墮落せしむること。

(四)キリスト教宣教師に對する戰爭を起し、宣教師に嘲笑、誹謗及び疑惑を蒙らしめ、更にキリスト教徒の學校に於ける神學教授を全廢せしむること、並びに全教會の財産を取り上ること。

(五)家族主義を破壊し、又愛國心ある軍隊を廢滅すること及び軍備反對の觀念を益々煽動勃興せしむること。

(六)非ユダヤ人の國債及び私債を助長し、之れが實現を容易ならしむること、之れは彼等に對する良い餌である。

(七)取引所を盛んにすること。即ち取引所は非ユダヤ人を投機に引き入れ、其財産を吾々の手に移すよき手段である。

(八)非ユダヤ人の不動産を破壊し、土地をユダヤ人の手に移すこと。

(九)手工的職業に換へるに、大資本の製造工場を以てすること。

(十)吾々は、農村及村落經濟を掌中に握るため、特に酒精、穀物、油類、絹の貿易及び投機業を確實に吾人の手に保持すること。

(十一)ユダヤ人のために、有らゆる官職に就く道を開き、立法の中心に加へしめること。

(十二)ユダヤ人に不利なる法律を廢し、及び特に利益ある法律を制定すること。

(十三)ユダヤ人は、キリスト教徒の財産、健康及び生命を吾人の手に入るため

醫者及び辯護士の職に就くこと。

(十四)吾々の富を増大し、吾々の目的に接近するため、有らゆる革命を助長すること。

(十五)全世界に波動しつゝある社會運動を指導すること。

以上の通りである。而して更に左の五項が結論として示されて居る。

(一)若しユダヤ人が、此決議に従ふならば、數百年の後、吾々の子孫は、吾々の墓に來り、ユダヤ人に與へられたる誓約が實行せられ、吾人は實際に世界の王侯となつたと報告するであらう。

(二)他の國民は漸次ユダヤ人の奴隸となるであらう。此目的を速に達成するためには、自ら社會運動の味方と詐り、貧困者の運命改善への課程なりと稱するところが必要である。實際に於て、吾々は輿論の支配及び掌握に努力することを爲さねばならぬ。

(三) 民衆の盲目なること、及び彼等の空虚にして音ばかり高い雄辯を好む性癖は吾々の人氣並に信用と相俟つて、民衆を誘惑する兩刀の武器である。

(四) 吾々は目的を達するために、或程度まで労働階級を保護することが必要である。さうすれば、吾々の希望通り、民衆を挑發することが出来る。

(五) 吾々は革命の武器として民衆を使用しよう。さうすると革命ある毎に、吾々の事業は成功に近づき、全地球上を統御するの目的は速に達成せられるのである。

◎西暦一千八百九十七年バーセル市開催の「シオン議定書」摘録

議定書は第一より第二十四に至る長文のものであるから、其主なる部分を摘録し他は省略することにした。

第一議定 (摘録)

世の中には、善良な人よりも、不良な本性を有する者の方が多い。従つて、政治

は、學理上の議論よりも、強制や暴力によつて行つた方が良い結果を得る。元來人は、権力を得ようとし、得れば執政者たることを望む。而して、自分の目的を達するため、他の幸福を犠牲にしないものは極めて稀である。

人間と呼ぶ狡猾な動物を今日迄抑制し來つたものは、何か。又何が今日迄指導して來たか。

社會秩序の初めには、人は自然の暴力に服従し、後に法律に服従したが、法律とて此暴力の假面に過ぎない。

そこで、正義は権力にありと云ふ結論になる。

政治の自由は思想であつて實際ではない。若しも我黨が、他の政權を握れる政黨を倒すためには、自由の思想を巧に利用して、民心を引きつけなければならぬ。而して、政敵が自由の思想に感染したならば、其感染によりて、その勢力が減退するから、之れを倒すに容易となる。此處に於て、我等は勝利を得ることが出来る。

その昔、宗教が行政権を掌握した時代もあつたが、今日の時代では、金力が自由主義の名の下に政治を代辯することとなつて居る。

元來、自由の思想は實現すべからざるものである。何故ならば、何人と雖も自由を適度に使用することが出来ないからである。従つて人間が自治を行ひ得るのは、暫時の間で直に放縱に變化する。即ち自治になつた瞬間から内訌が起り、内訌は鬭争となり、戦ひは國家を燃焼せしめ、遂に國家は灰燼に歸するのである。

内亂によろうと、内亂の結果外敵に亡ぼされようとして、結局滅亡は滅亡であつて、其國家は我が權力に歸したものである。

群衆を支配するに當つては、其大衆が下賤で、無定見で、無節操であることを知らねばならぬ。彼等大衆は、自己の生活や、幸福を充分理解し、批判する能力なく盲目で、非理性的で判断力を缺き、右にも左にも容易に耳を傾けるものである。今、若し、大衆の中から指導者が登場しても、盲人が盲人の案内をする様なもの

であつて、結局皆を滅亡の淵に陥れる。假に、群衆の中から最も賢明な理論を教へるものが出て、群衆は嫉妬や、迷信や、習慣や、因襲や、自己の利益や、幼稚な小理屈に捉はれて、黨派的分裂をなし、全體の一致を見るものではない。

政治は道徳ではない。道徳で行政をする爲政者は政治家ではない。苟も政治を行はんとするならば、狡智と虚飾を弄さねばならぬ。非ユダヤ諸帝國の特質たる公明正大は、我々が其帝王を引下すためには、最良の方法であるが、吾々は斷じて、其指導を受けてはならぬ。

結局完全なる政治形式は、一人の責任ある者によつて行ふことであつて、獨裁君主のみが全國家機關を按排して秩序を保ち、宏大且つ明瞭なものに仕上げる事が出来る。文化は大衆が導いたものでなく、指導者によつて導かれたものである。群衆は野蠻であつて、有らゆる場合に野蠻性を發揮する。而して、其野蠻人が自己の手に自由を握るや否や、それを、無政府状態にする。之れが野蠻の最頂點である。

自由は、酒を無制限に飲む権利を興へた。諸君は薄馬鹿になつて居る。酒浸りの多くの動物を見るであらう。而して、我々及我黨のものには決して之れを許してはならない。

非ユダヤ人は、酒で白痴にされ、其青年は、古典主義及早熟の淫蕩から馬鹿になるが、是は我が男女の間諜が、或は番頭になり、或は家僕になり、或は家庭教師になり、或は女給になつて、富豪の家庭や、バーや、社交界に出入して、彼等の青年を煽動し、故意に贅澤や淫蕩を助長せしめて居るからである。

吾々の暗號は、力と偽善である。政治上に於ては、力を以てのみ勝を制することが出来ものである。又、奸策や狡猾は、帝國を倒す唯一の手段であるから、我々の計畫遂行上必要なる場合は、買収詐欺背信をなすに躊躇してはならぬし、又政治上、他を屈服し、政權を得るためには、用捨なく他人の財産を奪はねばならぬ。

吾々は昔、自由平等、四海兄弟なる言葉を非ユダヤ人に授けた。

其れ以來、此言葉は無自覺の鸚鵡、非ユダヤ人に依りて繰り返された。而して、彼等の眞の自由と、健全なる平和を奪ひ去ることが出来た。如何にも伶俐らしく見える智識階級の非ユダヤ人も、此言葉を抽象的に判断することすら出来ず、此言葉の矛盾と調和とを發見し得ない。又天然には平等なく、天然夫れ自身が智能、性質、才能の不平等を作つて居つて、人は天然自然の法則に服従すべきものであることも知らずに狂喜して、此言葉を擔ぎ廻つた。其結果は蛆虫の如く到る所、平和、安寧協同を滅却し、非ユダヤ人國家の根底を破壊し、其國民の幸福を喰ひ盡した。換言すれば、非ユダヤ人國家、及其國民の防衛物たる非ユダヤ人貴族の特權を吾々に興へられたものである。

要するに、自由と云ふ抽象的標語は、政府は國家のものであり、國民の支配人であるから、何時でも交代し得るといふ信念を國民に興へ、人民の力によりて、其代表者を交換する様になつた事は、丁度、我々が任意に代表者を任免することになつ

たのと同じである。

第二議定（摘録）

我々は戦争の結果が、領土的利益を齎さない様にすることが必要である。さうすれば、戦争は、経済的領域に移されるが、この領域では、我々の勢力を諸國民に充分認識せしむることが出来る。而して、其兩交戦國は、如何なる邊鄙の地までも行き渡つて居る我々の仲間の自由になるのである。其時、我々は、國際法を抹殺して丁度各國の民法が其國民の關係を律する様に我々は各國を支配するであらう。

現代各國家の掌中には人民の思想傾向を知る偉大な力が存在する。是れ即ち印刷物である。印刷物は人民の切なる要求があるかの如く書き立て、又人民の叫び、訴へを傳へ、或は不平を製造して、之れを發表するにある。

言論の自由の勝利は印刷物によつて肉付けられるのであるが、各國は之れを利用しなかつたために、我が掌中に歸してしまつた。我々は印刷物の陰にあつて、黄金

を自己の手に集めた。然し、我々は多數の仲間を犠牲にした。けれども、味方の一人は敵の一千人に値するのである。

第三議定（摘録）

我々は大衆のために、有名無實の權利を憲法中に挿入した。憲法中の人民の權利なるものは理想に於てのみ存在し、實際は斷じて存在しない。なぜならば、毎日の勞働は、彼等貧民に投票の權利を利用する閑を與へないのみか、傭主や、同僚から同盟罷工に左右せられて恒久賃銀を奪はれて居る。

貴族は、彼等の利益擁護者であり、又其養育者であつたが、其貴族を大衆は、我々の指導によりて滅亡せしめたから民衆は、貴族の滅亡に依つて奸佞な吝嗇家の壓迫の下に落ちてしまつた。其場合我々の、軍隊社會主義、無政府主義、虛無主義は我々を救済主の如く思ふであらう、勞働者の勞力を利用して居る貴族は、勞働者が満腹であり、健康であり、幸福であることを望んで居るが、我々は之れと反對に、

労働者が榮養不良になり、衰弱することを望むものである。何故なれば、之れに因りて、彼等は我々の思ひ通りになり、反抗する力も、氣力もなくなるからである。吾々は生活難と、之に因つて生ずる嫉妬と憎しみの念に依つて群衆を動かし、其の手を以て吾人の道を遮る者を平定する。我が全世界領主が戴冠せんとする曉に於て、之に障碍となるものは、やはり同一の手が之を排除するであらう。

非ユダヤ人は我が科學の相談なしに考へることが出来ない習慣を持つて居る。それであるから彼等は、吾人の天下になつた際に、吾人が直に遵守せねばならぬ眞に必要なものを知らない。即ち學問中の唯一の眞學問を國民學校に於て授けねばならぬことを知らない。眞學問といふのは、労働の分業を要し延いては人間を各階級に分割するを要する、社會状態と人間生活の組織に就ての學問である。有らゆる人は、各其の行動の價値に差があるからして、平等はあり得べからざるものであるといふこと、及び其の行爲に依つて全社會に害を與ふるものと、自己の名譽の外何

人にも迷惑をかけない人とは、法律の責任が同一たることが出来ないといふことを知るやうにすることが必要である。

それで吾人が非ユダヤ人に秘して居る正當なる社會組織學は、教育と労働との不調和からして位置と労働とが、人生の困苦の源泉とならないやうに一定の輪廓内に保持されねばならぬといふことを人々に示すであらう。此の科學を人民が研究するに於ては、喜んで政府と其の政府の制定した國家の法律に服従するやうになる。科學の現状も吾々の形成した科學の傾向では紙上の言論に盲従する人民は自分の無學と宣傳による錯誤から、自己の上級者に對して敵愾心を抱懷する。是は各階級の意義の存するところを能く知らないからである。

上述の敵愾心は商業取引及び工業力を停止せしめるところの經濟的危機の原因に依つて層一層昂進するものである。それであるから吾々は、全然我が掌中にある黄金の援けと、吾々の爲容易で且つ隱密な有らゆる方法を以て一般經濟的危機を造り

上げ、以て歐羅巴各國に於ける全労働者を一時に街衢に抛り出すことにする、さうすると此等の群衆は自己の馬鹿正直から、幼時より嫉んで居つた者共の血を流さうと狂喜して馳せ集り、人々の財産を掠奪することになる。

彼等群衆は吾々には手を觸れない。なぜならば吾々には此の攻撃の時機が解つて居るので、豫め其の防禦手段を講じてあるからである。

進歩は非ユダヤ人を理智の王國に導くといふことを吾々は話をしたが、吾人の専制主義が丁度夫れである。なぜならば専制主義は智的嚴正を以て凡ての動搖を鎮壓し、社會から自由主義を除去するからである。

人民は、官憲が自由の名の下に凡て讓歩的になり寛容になつたのを見て、人民自身の主権者であると思ひ、想像し政權を得んと突進したが、併し凡ての盲目がやるやうに矢張大障礙物に衝突し、それで以前の狀態に復歸することには思ひ及ばないで指導者を捜し始め、遂に自己の全權を吾人の足下に置いた。

想起せよ、吾人が大革命と命名した佛蘭西の大革命を。此の革命の秘密は吾人に明瞭である。なぜならば全革命は吾人の手に成つたからである。

其時以來吾々は世界の爲に吾人の準備したシオン血統の専制君主でなければ、その王たることを人民が拒絶するやうに、人民を次第に迷から醒すやうに、指導して居る。

現在吾人は國際勢力として鞏固なものである。なぜならば一方の國々が吾人を攻撃する時に他の諸國は吾々を支持するからである。強力者の前には叩頭し、弱者に對しては無慈悲であり、小失策に對しては嚴格で、大罪惡には寛容であり、自由な制度の矛盾に對しては我慢することを欲せず、猛烈な専制の壓迫に對しては殉死さへ敢へてするところの非ユダヤ人の限りなき卑劣——是ぞ吾人の獨立を助長するところのものである。彼等人民は現代の首相即ち獨裁官の醜行を忍耐し我慢してゐるが、その癖それより小さい失行に對して二十人の王の首を墜すであらう。同種類の

やうに思はれる事柄に對して、民衆のこのやうに撞着する現象を何う説明すべきであらうか？

此の現象は之で説明される。是等の獨裁官は自己の間諜を経て人民にいふ。此の醜行に依つて國家に損害を與ふるのは最高目的の爲である。即ち各國民の幸福、四海兄弟、協同一致及び同權の目的を達成せんが爲であると。併し間諜は斯ふいふ合一は、唯吾人の勢力下に於てのみ全ふし得らるゝものであるといふことは勿論話さないのである。

夫れ斯のやうに人民は、彼等の望むところは凡て成るものと次第に深く信じつゝ、正者を責め犯罪者を宥恕し、有らゆる堅實なるものを破壊して、一步一步無秩序を現出し行くのである。

自由なる言葉は、人間社會を驅つて有らゆる力、有らゆる權力、果ては神權や自然力に對してさへ抗爭せしむるものである。それであるから吾人の君臨したる曉に

は、「群衆は變じて血を好む猛獸となる、」といふ動物力の原則からして、此の言葉を人間の辭書から除かねばならぬ。

猛獸は血を呑みさへすれば眠るが、其の時には容易に之れを鎖に縛り付けることが出来る、若しも彼等に血を與へないならば、彼等は眠らないで荒れ狂ふのである。

第四議定（摘録）

自由が、若しも神に對する信仰の道に保持せられ、又服従を規定する天地の法則に背馳する平等の觀念を除去したる四海兄弟主義に維持せらるゝならば、人民の幸福を害ふことなく國政を無事に保持することが出来る。人民が斯かる信念を有するに於ては、地上に於ける神の攝理に従ひ、檀家の世話役に支配され従順に且つ溫和に己が教會の牧師の指導に従ふものである。それであるからして吾人は宗教を根底から覆へし、非ユダヤ人の頭から神及び精神なる原則を抜き取り、全然打算的で且つ物質的な慾求を以て之に代へねばならぬ。

非ユダヤ人が此のことを考へぬやうに又氣付かぬやうにする爲には、彼等の頭を商工業で牽制せねばならぬ。さうすると各國民は、自己の利益のみを搜がし廻はり利害に夢中になつて、自分等の共同の敵を見附け得ない。

第五議定(摘録)

各國民が帝王を見ること恰も神意の清淨なる現象の如くであつた時代に於ては、不平を言はずに帝王の獨裁に服従して居つたが、吾人が各國民に個人の權利なる觀念を注入して以來は、各國民は帝王を單なる人間と思ふやうになり、神饌の塗油は人民の目前に於て王の頭上より落ちた。そして吾人が人民から敬神の念を奪ひ取つた時には、其の權勢は共產の巷に投げ出され、吾々に占領されてしまつた。

輿論を掌握せんが爲めには、非ユダヤ人が迷團に姿を没する迄は各方面から出来る丈け色々の反論を主張して、政治問題に就ては何等の意見も持たぬ方がましである、と思ふ程、輿論を迷路に立たしむることが必要である。元來政治問題なるもの

は、一般の人々が知る必要なく、人々を指導する者のみが承知して居るべきものである。——是が第一の秘訣である。政治に成功する爲の第二の秘訣は、人民の缺點習慣、欲望及び一般生活の法式を各種各様に増加し、其の渾沌たる中であつて、何人も其の選擇に苦しみ、之が爲め人々が相互に全く了解することが出来ぬやうにするにある。又此の方法は有らゆる黨派に軋轢の種子を蒔き、吾人に征服さるゝことを欲しない一切の公衆力を粉碎し、且つ吾々の事業に對して些少なりとも妨害を支持へ得るところの個人的獨創性を無氣力ならしむるに役立つのである。

個人的の獨創性程危険なものはない。若しも個人的の獨創性が天才的のものであるならば其の天才は、吾々が折角軌轢の種を蒔いた百萬の人々のする仕事よりも以上に仕事をするのである。故に非ユダヤ人が個人的獨創性を要する仕事の前に失望して、忙然手を束ぬるやうに、吾人は非ユダヤ人を教育せねばならぬ。自由行動より生ずる努力は他の自由に遭遇して其の力が衰退し、此處から重大な

精神的打撃、失望及び失敗が起る。此の方法を以て非ユダヤ人を疲勞困憊させ、世界の有らゆる國家的勢力をも完全に手に收め、そして最高政府を創設し得る國際的主權を吾人に提供するの餘儀なきに至らしめる。そして現在の爲政者の代りに最高政府行政廳と名づくる怪物を据ゑつけるのである。其の手は、各國民を統禦せずんば止まない程の老大な組織を持つて居つて、壁蝨のやうに四方八方に延ばさるゝであらう。

第六議定（摘録）

非ユダヤ人の貴族は政治的勢力としては既に没落し、何等顧慮する必要はないが地主としての彼は吾人に有害である。それは自己の生活資源に於て獨立し得るからである。それであるから吾人は、何うでも斯ふでも土地没收をやらねばならない。加之吾人は勞働者無政府主義と飲酒とに馴致せしめ、之と共に地上から非ユダヤ人智識階級の有らゆる勢力を驅逐する手段を講じ、以て巧妙深刻に産業の根底

を顛覆せしめよう。

吾人は事の真相が中途で、非ユダヤ人に發見されぬやうに、表面いかにも勞働階級の爲と、經濟の大原則との爲に盡力するかの如き主義を取つて真相を隠さう。此の經濟の大原則といふのは、我黨の經濟的學說が盛んに宣傳して居るところのものである。

第十議定（摘録）（第七議定、第八議定及第九議定は省略）

我が獨裁政治の承認といふことは、憲法廢止以前に到來するかも知れない、爲政者の不規律、其の履行不能及び吾人の煽動で苦しめられた人民は叫び出す「彼等を排除し吾々を一致させ、紛糾の原因たる民族、宗教の差別、國家の打算を廢し、吾々に平和と安寧とを與ふる一人の全世界王を與へよ。吾々は我が爲政者及び代議士と一緒に平和も安寧も見出すことが出来ない」と。其の時が我が獨裁政治承認の時機が到來したのである。

然しながら諸君は能く承知のことと思ふが、全國民をして斯る希望を述べさせる可能を得んが爲には、絶えず各國に於ける人民と政府との關係を紛糾させる必要がある。是が爲には不和、敵愾心、争闘、憎悪果ては困苦、饑餓、病毒傳播、生活難を以て疲勞困憊せしめ、非ユダヤ人が吾人の金力を有する完全な主權に走り寄る外他に途を見出さぬやうにせねばならぬ。若しも吾人が人民に休息を與ふるならば希望の時機は到底來ぬであらう。

第十三議定（摘録）（第十一議定及第十二議定は省略）

尙吾々は彼等が何か考へぬ様に享樂や、遊戯や、娛樂や、性慾や、民衆俱樂部などを設けて彼等を牽制する。……

間もなく吾人は新聞雜誌に依つて各種各様の運動、藝術の競技を提議する。即ち此等の趣味は吾々が彼等と戦はねばならぬ諸問題から人心を徹底的に牽制する。さうすると人々は次第に獨立の思索から離れ吾人と共鳴する。なぜならば思想の新傾

向を提出するのは吾人許りであるからである……之を提出するのは、吾々の仲間のやうに見えない人々を経てやるのである。

以上の如く遠大陰險巧妙なるものである。（第十四議定以下省略）

(2) 實際の活動

ユダヤ人の分布は明らかでないけれども、彼等ユダヤ人の云ふ所によると其總人口は一千五百四十五萬人であつて、主なる分布は、米國に四百八十萬人、ポーランドに三百七十萬人、露國に二百九十七萬人、ルーマニヤに百萬人、獨國に六十萬人、英國に三十萬人、佛國に二十萬人、伊國に二十萬人、滿洲國に一萬人、支那に一千人、日本に一千人と云ふことになつて居る様である。而して彼等は世界を統一するために、前述せる如く、金力を求め、政治を求め、言論機關を求め、宣傳機關を求め、娛樂機關を求め、一方に於て、金力、権力、宣傳力に依りて非ユダヤ人を壓迫し、他方娛樂機關と宣傳機關とを利用して盛んに淫靡、墮落の風を誘致し、或は誤

れる學理を倣造して流布して居る。即ち政治家には過去に於て英國の前首相ビーコンスファイルドや、前大藏大臣スイデンや、前内務大臣ヘンダーソンや、前首相マクドナルド、佛國の前大統領ミルラン、前大藏大臣クロツツ、前首相ハンルベ、獨逸の前大統領エーベルト、前外相ラテユナーや、共和獨逸の中心人物たりしシヤデマ及びスチンネスの如きもユダヤ人であり、奥國の前外相エーレンタール、露國のトロッキ、ケレンスキ、ジウノウイエン、ヨツフエ、伊國、前外相ソニンノ・シヤンシエルも又ユダヤ人である。國際聯盟事務總長ドラモンドも、支那政治顧問たりしシンプソンも、米國前大統領フーバーもユダヤ人であつた。其他過去に於ける世界各國の政治家中ユダヤ人は枚擧に違がない。

現在に於ても、英國のチエンバーレン首相、イデン外相、植民相、國防相、海軍相、陸軍相、其他各大臣は殆どユダヤ人又は夫れと關係深いものが多い。米國ではルーズヴェルトの主なる顧問バーナード・ハラクやサミエル・ジエー・ローゼンマ

ンもユダヤ人である。學者發明家ではマルクスもアインスタインもエヂソンもラツサールもメンデルスもハイネもワグネルもワイズマンもユダヤ人であつて各種の發明品や思想を生み出して居る。

現在世界の言論機關中其の九割は既にユダヤ人の掌中に歸して居るから今日世界の輿論は彼等によつて支配せられて居るのだ。

又世界の中心市場たるロンドン及びニューヨークの取引所はユダヤ人の手に歸して居り、世界大戦によつて彼等が利得した金額は二千萬億圓に達し全世界の富の二分の一は彼等の手に歸したのである。

革命のある所、其の背後には必らずユダヤ人が存在してゐる。即ち米國の獨立戰爭もユダヤ人が關係し、佛蘭西革命も又ユダヤ人の手に依つて行はれた。佛王ルイフキリツプの死刑を行つたのもユダヤ青年サムソンであつた。

伊國に於てヨゼーフ一世及カールアルベルト王並にフェルヂナント二世の暗殺を

企劃したのもユダヤ人である。

ポルトガルの國王と其の皇太子を暗殺し、マヌエル王を退位せしめたのも又土耳其王を退位せしめ、セリム二世を暗殺したのもユダヤ人が背後に居つた。

世界大戦の因をなした埃國皇儲フランツ・フェルチナンド大公の暗殺下手人たるブリロ・プリンチツ及其計畫者は皆ユダヤ人であつた。

一千八百八十一年三月十三日アレクサンドル二世を暗殺したのも、衛戍司令官トウレポフ、内務大臣ステイチャーギン、首相ストリピンを暗殺したのも共にユダヤ人であつた。

露國皇帝を始め、無邪氣な皇太子に至るまで十數名の一族を慘殺したのもユダヤ人である。此革命に要した壹百億の金は米國ユダヤ人から出て居る。

獨逸革命後大統領を補任して無冠の帝王と稱せられたるスチンネス(ユダヤ人は自分の機關店をして、世界各國に、獨逸の老なる工業生産品を英國のポンド貨に

て賣約し、自國の製造業者には、獨逸のマーク貨で注文し、而して彼は彼の握持する政治的權力を以て獨逸の紙幣を濫發して、マークを下落せしめ、殆んど無價値にした。其結果彼は、殆んど代償を支拂ふことなく、自國の工業生産品を多量に仕入れ、之れを海外に輸出し、多額の金貨に代へ、數十億の巨利を博した。

ユダヤ人は、宣傳機關としての映畫に着眼し、之れが獨占を計畫した。彼等は非ユダヤ人たる某米國人經營の映畫會社を奪ふために、先づユダヤ人財閥は彼に金を貸した。而して一方、ユダヤの共産指導者は、其映畫會社の労働者として入社し、而して間もなく、其映畫會社内には、労働爭議が勃發し、經營が困難になつた。此の機に乗じ、ユダヤ系取引銀行は、貸付金返還の嚴談をしたけれども、苦境にある映畫會社は之れに應ずる事が出来ず、遂に彼等ユダヤ人の手に奪はれた。

以上は過去に於けるユダヤ人の活動の大略であるが、ユダヤ人の陰謀に對する活動は、過去の事實のみと妄斷してはならない。

今回東亞に巻き起り、日支兩國を苦惱せしめつゝある支那事變は「ユダヤ」の陰謀でないとな誰が保證し得ようか。

南支からは、資本主義によつて、英米ユダヤ系が、支那の要人に喰入り、北西からは、露國の共產が吐き出す毒素によつて、下層階級を風靡し、支那を羽交ひ攻めにし、滅亡に導いて居る。眠れる支那は遂に露國と共に、ユダヤに奪はれた。

我事なれりと信じたユダヤ人は、最近（一千九百二十八年以來）ハバロスクに近く、黒龍江沿岸ピロヒチヤンにユダヤ帝國の再建を企て、世界を「睥睨」して居るのだ。

三、陰謀と日本國民

今や世界に、二組の戦士が登場して居る。其一組は、人道の正義を目指して進む三人組であり、他の一組は右手に麻薬を持ち、左手に極めてよく馴らされたる數匹

のセバードを持ち、前者を倒さんとする一人の戦士である。

云ふまでもなく前者は、日獨伊であり、後者は、ユダヤであつて、セバードは、英米佛露支に相當し、麻薬は悪思想である。血管と神経をユダヤに奪はれたる英、米、佛、露、支は如何は大國であつても、十數億の國民を擁しても、夫れは忠實なるセバードの領域を出ない。ユダヤ人は、容易に他民族に對し、右手の麻薬を散布して、麻痺せしめ、之れを捕獲し、彼等の神経と血管を代へ、犬として敵に向はしむるだけの術を知つて居る。彼等は犬を愛するのではないから、何時其の犬が死んでも差支へはない。

今日日本は、獨伊と共に、此のセバードに立向つて居る。而して何時孤立にならぬとも限らぬ。

結局我々日本國民は、ユダヤ及びユダヤ支配下の有謂國家を敵として、孤立之れに對抗するの覺悟を必要とする。

吾々の祖先は、過去二千六百年、不動の皇國精神を具現して、武力戦に於て、經濟戦に於て常に優勝し、光輝ある今日の大日本帝國を克ち得た。今後に於ても必ず克ち得るに違ひない。けれどもユダヤ人の策戦は、遠大であり、巧妙であり、而して其大半は成功して居り、今後の成否は一つに、日本の態度、力量によつて決するものと云はなければならぬ。故に、吾々は武力に於て、經濟に於て十分の力を養ふと共に、舉國一致、不動の日本精神を涵養し、如何なる麻薬にも、如何なる思想戦術にも、決して陥ることなき用意と、覺悟をせなければならぬ。

皇道は宇宙の眞理を基礎とせる人道の大本である。皇道により、ユダヤの陰謀を打破することは、獨り帝國のためのみでなく、世界人類のためであり、又ユダヤ人のためである。

吾々大和民族は、肇國以來培はれたる不動の皇國精神を堅持して、ユダヤの放出する惡思想を驅逐し、皇道の光明によりて世界を救ひ、ユダヤを救はなければならぬ。

使命を持つて居るのであるが、支那事變は、彼等の筋書通りに膠着し、長期抗戦は最早避け難き實情にある。

世界戦争に於ける實際から觀ても、經濟戦、思想戦は之れからだ。吾々は、吾々の血肉の中に、祖先傳來の皇國精神が流れては居るが、衣服や、日用品の消費節約は勿論、場合に依つては、日常の食事すら節約し、其上數倍働かねばならぬ苦境に陥るかも知れない。「溺るゝものは藁をも掴む」との諺がある。多くの人は堪へがたき苦境に立つた場合、頼むべからざるを頼み、迷ふべからざるに迷ひ、不知の間に敵の術中に陥り、遂に立つ能はざるに至るものである。

若し、吾々國民が、今期事變に於て堪へ難き苦境に會し、護國に對する絶對の責任を感じず、或は、輕卒なる思慮により、惡思想に感染し、流言に迷はざるゝが如きことあらんか、二千六百年の歴史と矍鑠たる國威を克ち得たる祖先と、今後無窮に傳はるべき子孫に對し何を以て應へることが出來やうか。

今後吾々國民は、一層世界の情勢に通じ、深甚の注意を怠らず、如何なる思想戦にも、必勝の用意と覺悟を持たなければならぬ。

四〇

四、思想戦と青年團

思想戦に對しては、舉國一致之れに對處すべきは勿論であるが、思想の動搖期にある青年に對しては、常に不動の皇國精神を涵養し、誤りなからしむることは、特に必要である。而して其必要なる青年の思想を善導すると共に、其青年個人を介して、一般國民の思想戦に對する注意を喚起することは、一舉兩得の策である。

大日本聯合青年團が、全國青年團員に對し、極めて積極的に、文書教育、ラヂオ教育、映畫教育を勸奨して居るのも、此故である。

五、結 言

以上述べたるが如く、帝國の安泰は、武力戦にも、經濟戦にも、思想戦にも、常に全勝することによつてのみ得らるゝものである。而して、武力戦も、經濟戦も、其全勝の根底には、強き皇國精神の發動を必要とする。

換言すれば、思想戦は總ての戦ひの根底をなすものである。將來戦線に、銃後に、帝國の前途を負ひ、奮闘すべき青年を以て組織せる青年團が、國家の危急に際し、此恐るべき思想戦を擔當して、必勝を計り、帝國の安泰を期することは、全國青年團の當然の責任である。

青年團關係者各位は、此重大時局に直面し、思想戦の重要性に鑑み、文書教育、ラヂオ教育、映畫教育に對し、一層の御奮闘を切望して竭まぬ。

參考書

- | | | |
|------------|-----------------|-----------|
| 包荒子 | 世界革命の裏面 | (二西社) |
| 安江仙弘 | 革命運動を暴く | (北斗書房) |
| 同 | 猶太民族の世界支配？ | (古今書院) |
| 塩田盛道 | 皇國大日本と其使命 | (建國講演會) |
| 長谷川泰造 | ソ聯の要路を占むる | (人文書院) |
| 柳沼七郎 | ユダヤ人の極東攻略？ | (國際政經學會) |
| 同 | 國際秘密力の研究一、二、三、四 | (國際政經學會) |
| 辻村楠造編 | 米國を動かす猶太人の勢力 | (國際政經學會) |
| 安江仙弘 | ユダヤ問題論集 | (光明恩惠普及會) |
| 長谷川泰造 | ユダヤ人の人々 | (國際政經學會) |
| ヘンリー・フォード著 | 國際秘密力の話 | (同) |
| 包荒子解説 | 世界の猶太人網 | (同) |
| G.S.ハッチスン著 | 世界大戰並に歐洲政局を繞る | (同) |
| 後藤富男譯 | 猶太秘密力の裏工作 | (同) |

思想戦と青年團

昭和十三年五月五日 印刷
昭和十三年五月十日 發行

定價 十 錢

(送料不要)

不許復製

著者	東京市四谷區明治神宮外苑霞ヶ丘 大日本聯合青年團
編輯兼 發行人	東京市四谷區明治神宮外苑霞ヶ丘 金藤光 槌
印刷人	東京市京橋區西八丁堀四丁目四番地 白橋龍夫
印刷所	東京市京橋區西八丁堀四丁目四番地 白橋印刷所

發行所

財團 日本青年館

東京市四谷區明治神宮外苑霞ヶ丘

振替口座東京六〇七七七八番

陸軍大佐 安江仙弘 著
ユダヤの人々

長谷川泰造 著
國際秘密力の話

ヘンリー・フォード 著
包荒子解説
世界の猶太人網

英國陸軍中佐 G.S.ハッチスン 著
後藤富男 譯
世界大戰並に歐洲政局を繞る
猶太秘密力の裏工作

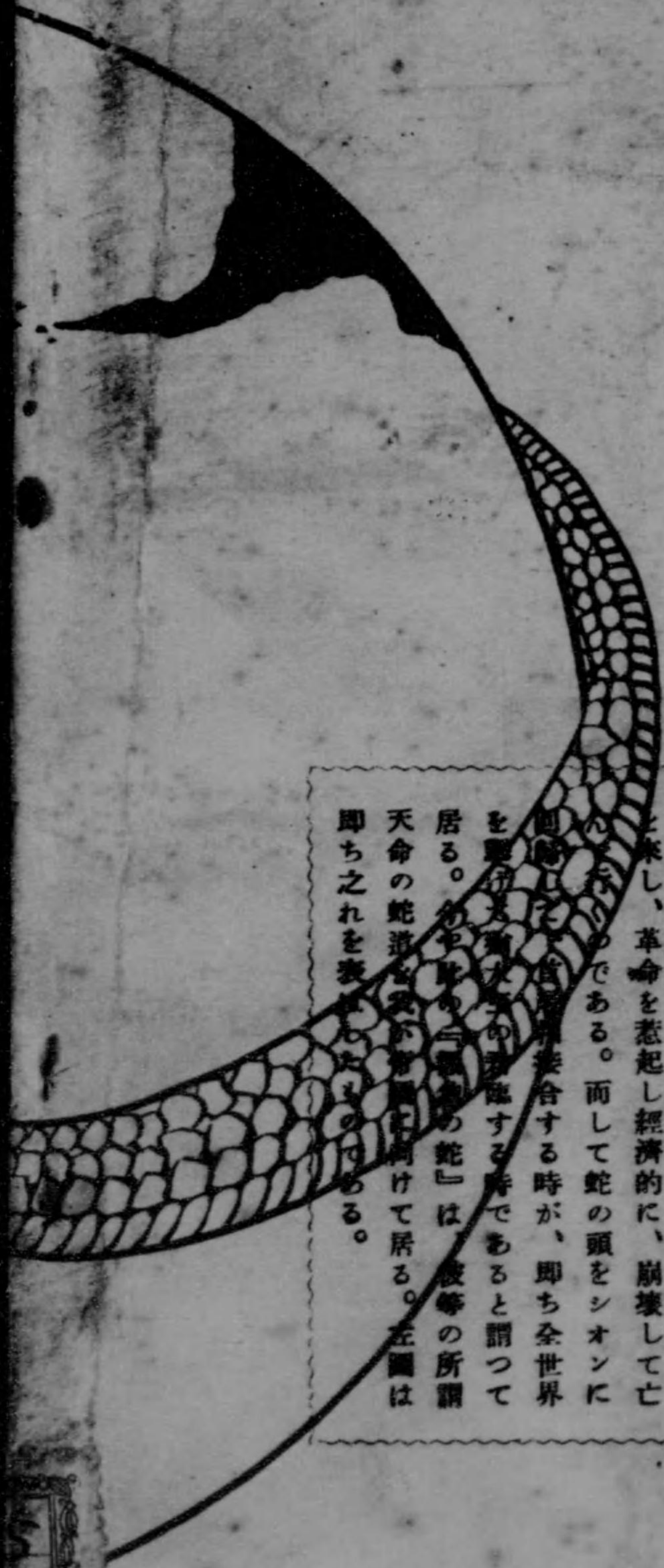
定價 壹圓九錢
送料 九錢
南大將曰く「見えざる戦闘を唯一の力とし、全世界に亘り大なる役割を演ずるものは、即ち國際的民族たる猶太人である。従つて猶太民族を研究することは、我々日本國民として、國防上よりするも當然爲さねばならぬことである。」

定價 壹圓八錢
送料 八錢
若宮卯之助先生曰く「現に日本に於て全く不可解の如く看做されて居る各種の大問題、難問題、若くは解不解の間に在するが如く認められる雑多の案件は、本書の論述に依つて、少くともその真相を看破するの手續を得ることが出来るであらう」

定價 壹圓八錢
送料 八錢
原著者曰く「猶太問題とは實に周知の事柄即ち財政及び商業上の支配、政權の壟斷凡ゆる生活必需品の獨占及びアメリカ言論機關を意の儘に操縦すること等のことのみに関係する問題たるに止まらないで、現今に於ては文明の實生活界にも侵入してゐるのである。」

定價 七拾錢
送料 七拾錢
若宮卯之助先生曰く「猶太人が表面、如何にも尤もらしき經濟政策に依つて、如何にその世界霸權を實現せんとしつゝある乎。軍需工業の獨占と戰爭熱の煽揚とは、如何なる關係を保つのである乎。是等の事實は他の多くの類似の事實と共に本書の描寫は簡明直截である。」

東京市幸町 政經書房 電話 一七三二一
東京市幸町 政經書房 電話 一七三二一



紀元前九百二十九年猶太聖賢等は『標象の蛇』なる教旨に依つて平和的に世界を征服する政策を考案した。蛇の頭は聖賢の世界政策を委任された猶太政府で其の胴體は猶太人民である。此の蛇は最も正確に遠漏なき計畫に依つて、各國の胸部を貫いて進んで行く。即ち蛇道に當つた國は精神の墮落及道德の敗類を來し、革命を惹起し經濟的に崩壊して亡んで行くのである。而して蛇の頭をシオンに歸して、首尾相結合する時が、即ち全世界を聖賢の猶太聖賢の支配する時であると謂つて居る。此の『標象の蛇』は、彼等の所謂天命の蛇道を我が國に向けて居る。左圖は即ち之れを表したものである。